

お客様各位

平成25年3月15日

## 魚粉情報

### PERU

(株)コーンヒル SHIPPING AND TRADING  
原料部

I. 週間水揚げ量 (第10週: 3月04日~3月10日)					
PERU	(第10週)	(第9週)	2013年	2012年	前年比 増減率
	MT	MT	累計MT	累計MT	
Paita	0	0	5,309	17,651	30%
Chimbote	0	0	101,767	166,555	61%
Central	0	0	242,565	64,533	376%
Pisco	0	0	16,181	12,824	126%
South	0	0	4,917	57,758	9%
Total	0	0	370,739	319,321	116%

### II. 水揚げ情報

南部の漁獲は引き続きゼロの状態がつづいています。メーカーは政府の船型による漁獲の距離規制が原因で、チリを利する状況が続いていると批判しています。これに対し政府は先日出されていた規制を変更し、新たな規制策を発表しました。南緯16度以内では大型船は7マイル以遠の水域で操業し、魚粉を作ることが出来るというもので、それまで10マイル以遠であったものを3マイル内側での操業を認めました。政府側と大手メーカーの関係は相互不信から陰悪なものになっており、大統領は大手メーカーを「資源の略奪者」と罵っています。一方、IMARPEの政府に対する中間報告では、資源の漁は多いものの、若年魚の占める割合が大きいために、次期枠の量は大きく制限されるとの見方が強くなっています。次期枠は4月の初旬までには発表されるとの事で発給枠がゼロも有りうるかと現地では心配しています。



### III. マーケット情報

総括	未売在庫は急速に減少しています。中国を初め、インドネシア、ベトナムなどからの買い付けが有り、成約が進んでいます。低蛋白品やスタンダードグレードなどは、東南アジアや、メキシコ、エクアドルなど安い物も有りますが、ペルーは独自の価格を維持しています。現在の在庫は少ないワケで生産した虎の子であり、経営状態も今年一年は厳しい状況が続く中、他産地との競争での価格設定は出来ないということです
----	--

### V. 魚油情報

ペルーの魚油の2013年1月、2月の輸出量は、1月6,806トン、2月6,117トン、合計12,923トン(昨年同期は80,135トン)でした。仕向け地ではベルギー、カナダ、チリ向けが多く、次に米国向けとなっています。ベルギー向けは全体の50%を占めており、次いでカナダ17%、チリは12%、米国は8.5%。ペルー、チリ共に価格に変化は有りません。

I. 週間水揚げ量 (第9週: 2月25日～3月03日)					
CHILE	(第9週)	(第8週)	2013年	2012年	前年比 増減率
	MT	MT	累計MT	累計MT	
North	-	-			
South	0	0	0	0	
Total	34,650	25,412	293,211	351,615	83%

### III. 漁獲情報

総括	過去5年の第10週の平均水揚げ数量は115,000トンですが、このところチリの水揚げはその平均を大きく下回っています。南部チリの大型船は3月16日に漁をスタートさせます。第11週以降、水揚げは増えると予想されます。漁の期間は8月までとの事です。
----	--

### III. マーケット情報

中国の買い付けはチリにも向かっていると思われませんが、具体的な報告は入っていません。チリの魚粉価格はスーパープライムで\$2200MTFOB、プライムで\$2150MTFOBと上昇を続けています。アジ魚粉についてはウナギ用は\$2850～2900MTFOBと高値を唱えています。在庫も多くは無く、売れ行きも一部日本の商社が高値で買っている以外動きはなさそうです。

## CHINA

### ◆中国情報

港頭在庫はやや減少しています。ペルーの次期の発給枠がかなり少なくなるとのペルー政府関係者の言及に中国は反応し、先週から買い付けを進めています。中国各地の気温が上昇していることから、国内の引き合いも増加している模様で、国内価格も14500元/トンとわずかに上昇しています。一方で養豚の国内豚肉価格は安く、養豚業者の収益は悪化しています。中国全体の豚の飼育頭数は4億7500万頭。一部には未確認ですが、豚コレラなどの疫病の発生も伝えられ、上海方面での死亡した豚の河川への投棄が伝えられています。養豚が魚粉需要の大部分であることに変わりなく、ペルーの魚粉生産量の減少が続く中、買い付けは多様な産地に向けられています。

### ◆月刊「養殖」特別寄稿 ～浜値情報<2/25時点>～

ブリ	1月の鮮魚価格 500円 2月の浜値動向 400～450円 天然ブリ類の豊漁で養殖ブリは相場安が継続。一部で在池の消化が進み、相場は上げ基調となっている。
カンパチ	1月の鮮魚価格 644円 2月の浜値動向 500～580円 極度の安値相場が継続し、500円台/kgになるものも出ている。大型魚が加工に回ったことからフィレーン数量が伸びているが、総量としては少ない。
シマアジ	1月の鮮魚価格 1,494円 2月の浜値動向 990～1,350円 主産地愛媛の在池が少なくなり、サイズの幅が広がっている。相場は若干だが下げで展開している。
ウナギ	1月の鮮魚価格 4,398円 2月の浜値動向 3,250～4,200円 中国産に値上げに合わせて国産も値上げという流れが継続。価格は、産地で400円、平均単価で300円近く上昇。

